

第9回日本・エジプト経済合同委員会会議/ エジプト・ビジネス・セミナー 概要報告

2015年1月22日
日本エジプト経済委員会
(日本・東京商工会議所 国際部)

1. 日時： 2015年1月17日(土) 9:00～15:30
2. 会場： コンラッド・カイロ 「ボールルーム」
3. 出席者： 総勢 350人
【日本側】 清水順三 日本・エジプト経済委員会(JEBC)委員長(豊田通商(株)会長) 他
約110人
【エジプト側】 イブラヒム・エル・アラビー エジプト・日本経済委員会(EJBC)委員長
(Vice Chairman of the Board, ELARABY Group) 他約240人
【来賓】 安倍晋三 内閣総理大臣、イブラヒム・マハラブ 首相、香川剛廣 駐エジプト
日本国大使など

4. 総括的概要：



開会式の様子

第9回目となる今回の合同会議は、約7年ぶりにエジプトにて、安倍内閣総理大臣とイブラヒム・マハラブ首相ご臨席のもと開催された。両国あわせて350名という過去最高の参加者数を数え、両首相の政策スピーチ、特に安倍首相が今回の中東経済ミッションの総括といえる、日本の対エジプト支援姿勢及び中東和平に向けた日本の積極的支援を表明するスピーチを同会議の場で行ったことで、非常に注目度の高い会議となった。また、エジプトの安定を目指し、日本が今後さらに支援してゆくことを再認識する会合となった。

5. セッション別概要：

(1) 開会式

開会式では、まず、イブラヒム・エル・アラビーEJBC委員長が、「エジプトが情勢的に不安定な時期であっても支援を続けた日本に感謝を述べる。そして今回の会議を通じ、更なる協力を求めたく、活発な議論を行いたい」と挨拶した。その後、清水順三 JEBC委員長は、「エジプトは高い経済潜在性を有しており、中東和平の鍵を握る地域の大国である。日本の経済界としても引き続き支援していきたい、ビジネス環境向上のための提案を行っていき」と述べた。

続いて、安倍晋三内閣総理大臣より政策スピーチが行われた。スピーチでは、「中庸が最善」の精神に共感した旨を述べ、中東全体の経



清水委員長と安倍内閣総理大臣

済発展のために、まずはエジプトの民生と経済の安定が最優先である。日本の協力はそのために行われる。日本政府として、新たに、中東全体で25億ドルの支援を行う」ことを表明した。その後スピーチした、イブラヒム・マハラブ首相は、「両国の信頼関係は益々強いものになっている。日本政府の懸念は理解しており、必要な策を行い、両国民の期待に応えたい。日本の一層の協力をお願いしたい」と述べた。

その後、「日本のエジプトへの投資意欲」と題し、株式会社国際協力銀行(JBIC)代表取締役副総裁の矢島浩一氏と、日本貿易振興機構(JETRO)理事の加藤庸之氏よりご講演いただいた。

まず矢島副総裁より、エジプトにおける日本企業のビジネス展開の可能性とJBICによるサポートの可能性について説明があった。講演の中で、今後のエジプトは「政府系資金に頼るのではなく、海外より直接投資を呼び込み、Private Sectorの活力を取り組んで国内経済をより一層活性化する必要がある」との発表があった。

次に、加藤理事より、現在の日本とエジプトの経済関係、エジプトのビジネス・チャンス、進出している日系企業よりあげられたビジネス上での問題点、ジェトロカイロ事務所の活動について説明があった。「日本の投資額はエジプト政変後も年々増加している」、その魅力の一つに「エジプトはものづくり国家として、今後、中東・アフリカ地域における生産拠点にもなりうる能力を持っている」と述べた。



安倍総理の政策スピーチ

(2) 第1回全体会議「エジプトの可能性、投資とビジネス体制」

第1回全体会議では、当初スピーチ予定であった諸大臣が大統領表敬に随行したため、まず、投資大臣に代わりヤセル・アル・ナガル一等大臣が、エジプトの投資環境の概要を述べた。次に、石油・鉱物・資源大臣の代わりのEGASのカリッド・アブデル・バディエ会長より、この分野で抱える課題、それに対する政府の戦略とビジネス・チャンスについて説明があった。3番目に、運輸大臣の代理のマフムド・ガマル・エルディン顧問より、この分野における日本が行う協力に焦点をあてた説明があり、更なる支援のお願いがあった。4番目に、環境大臣に代わり、アフメド・アブ・エルソウド環境省長官より、持続可能な環境づくりに関する投資機会について紹介があった。最後に、国際協力大臣補佐のモハメド・ハマド氏より、投資環境の説明や、それに対して行っている国際協力省の業務の話があった。



エジプト側政府によるスピーチ

(3) 第2回全体会議「エジプト投資機会」・「日系企業の現状・エジプトへの期待」

第2回全体会議では、ハッサン・ファーム投資庁長官、イスマイル・ガベル産業開発庁長官、モハメド・オムランエジプト証券取引所会長、産業省二国間通商同盟部のマイケル ガマル カデス次官より、それぞれの分野でどのような投資環境があるかについて説明が行われ、日本の更なる投資協力を求めた。

その後、セラミカ・クレオパトラ・グループ メドハット・アザム氏(ムハメッド会長代行)とセラミカ・クレオパトラ・ジャパンの池田巴会長、続いて、前川製作所 伊藤信一ドバイ駐在事務所長より、会社概要とエジプトにおける事業の紹介があった。

最後に、在エジプト日本商工会 大内康生会長（伊藤忠商事・カイロ事務所長）より、進出日系企業の立場より、エジプトに対する期待、ビジネス環境での問題点、そして政府関係者に対する要望が説明された。

(4) 閉会式

閉会式では、まず清水委員長より、会議中に並行して行われたシシ大統領との面談において、「同大統領からはエジプトにおけるビジネス環境の問題点は、認識しており日本企業の誘致促進のため、改善に向けて取り組んでいるとの前向きな発言があった」と報告。その後、エル・アラビー委員長より、会議全体の総括があり、この会議が今後のエジプトの投資環境改善のために反映され、益々日本企業が進出することを強く望む」と述べた。

最後に、記念品として、今回の会議名とそれぞれの委員会名が刻印されたプレートの交換が行われた。



両委員長による記念品の交換

6. シシ大統領との拡大首脳会談



安倍総理大臣、清水順三 日本・エジプト経済委員会委員長をはじめとして総理随行ミッション参加者は、17日午前シシ大統領との拡大首脳会談を行った。

会談では、参加企業5社から各企業のエジプトにおける実績等の発表が行われた。清水委員長（豊田通商株）からは、エジプトにおける事業活動の実績、今後の活動強化による地域安定

への貢献についての抱負が述べられた。

7. 視察会

1月18日の午前中、合同会議のオプション・プログラムとして、ユニ・チャーム カイロ工場の視察会を実施した。同社の営業・マーケティング本部長の志摩浩史氏より会社概要や事業の説明の後、紙おむつの製造ラインの見学を行った。EU 向けの製品の場合は 23 か国語での表記が必要であるが、表示をアラビア語で統一できるというメリットから、この工場で生産したものは、エジプトだけでなく、中東アフリカ地域へも輸出されるとのこと。また、視察後の質疑応答では、ユニ・チャーム式のエジプト社員教育や、製品の流通等に関する多くの質問が行われ、活発な意見交換が行われた。



ユニ・チャーム・カイロ工場を訪問

以上